



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

この大会はスポーツ振興基金の助成を受けて開催されています。

[スポーツ応援サイト GROWING by スポーツくじ\(toto・BIG\) スポーツくじによるスポーツ振興助成について \(toto-growing.com\)](#)

JWA WAVE CHALLENGE

JWA JAPAN TOUR 2023-2024 PRO-AMA TOURNAMENT

JWA PRO TOUR WAVE 第2戦

NO.23 ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 【第23回 全日本 WAVE 選手権 2024】

□開催日：2024年1月5日（金）6（土）7（日）8（月）

□開催地：静岡県御前崎市ロングビーチ

□主催：JWA（一般社団法人日本ウインドサーフィン協会）

□後援：御前崎市

□Day1 LIVE アーカイブ：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 1 \(youtube.com\)](#)

□Day1 編集済み動画：<https://youtu.be/hZ6TrEay638?si=X3ggw5tHR75LlZPQ>

□Day1 大会 PHOTO：[Facebook](#)

まず先に、令和6年1月1日に起きた、石川県能登半島沖での地震・津波で被災された皆様におかれましては、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

参加選手の中にも地震の影響をうけ、被災者となった方も居る為、大会が開催できるのか含め非常に悩んだお正月となりました。

幸いにも選手と連絡が取れ、大会に出場する意思を確認することができたこともあり、催行することと致しました。

今大会は、この大会が始まってから初となる、アマチュアクラスとプロクラスの同時開催。

JWAのWAVE TOURとしては初となるLIVE配信を行うこととなった。

前半2日間はプロクラスが優先で、後半2日間はアマチュアクラスを優先するといったスケジュールで行った。

2024年1月5日 金曜日 大会1日目

メンズプロクラス（ダブルイリミネーション） ウィメンズプロクラス（4ラウンド制）が行われた。

朝一は風が無い状況からスタート。波は東向きの腰～腹サイズの波がブレイクしている。

午後から吹いてくる風予報に合わせ、選手も運営も準備を進めていく。

予報よりも早めに風が入ってくる。

試合を行うには、まだまだ風が弱く波数も少ないためウェイティングが続くが、小林プロがウォームアップを始め、否応なく期待が膨らんでくる。

風の勢いも増してきたところで、小林プロやウォームアップに出てきた板庇プロのエアールを入れた WAVE ライディングを見た会場はボルテージ MAX！



今か今かと待った試合が遂にスタート。

【メンズプロ】ファーストラウンドは、小林悠馬 VS 板庇雄馬

同じ年で同じ名前の二人は、10代の頃から切磋琢磨し周りからも注目されてきた。

そんな二人も30代となり、お互い二人の子を持つ父で、ウインド界を牽引する二人の対戦となった。

風が入り始めた影響か、西からの風波が入りはじめた影響でよれた波が多く、波を選ぶのがより難しい。

そんな中でも良い波を選んでくる二人だが、勝敗は板庇プロとなった。

次のラウンドからは前回のコールドブリーズでトップ4の選手が待ち受けている。

そして、対戦は石井孝良プロ VS 橋本陸汰プロ

橋本プロはフリースタイルのプロ選手。今シーズはWAVEにも挑戦している。

対する石井孝良プロは御前崎出身でPWAでも活躍するトップ選手で、昨年末には「ジョーズ」にも挑戦し成功させている。そして、石井孝良プロが流石のパフォーマンスを披露し次へのラウンドへと進んだ。

石井颯太プロ VS 白方優吏プロ

石井颯太プロは先に対戦した石井孝良プロの弟で、昨年末には兄と「ジョーズ」に挑戦し成功を収めている選手だ。対する白方プロは鎌倉をベースに活動し、去年はマウイに長期滞在し石井兄弟等とトレーニングを積んできた。

試合結果は、石井颯太プロがどこで見つけて来たの？と、問いたくなるような良い波に乗り、順当に勝ち進んだ。

野口颯プロ VS 吉武雅博プロ

野口プロは御前崎が地元の現役高校生、去年はPWAのユースクラスで入賞するなど、勢いのある選手。

対する吉武プロはWAVE委員長として、大会のプロデュース兼選手として、自ら大会を盛り上げている。

試合では勢いのある野口プロが勝ち上がり、次のラウンドへ進んだ。

杉匠真プロ VS 板庇雄馬プロ

杉プロは昨年PWA年間ランキング8位と素晴らしい成績を収め、先日行ったコールドブリーズで優勝した選手だ。

勝ち上がってきた板底プロだが、ここで敗退となってしまった。

準決勝

石井孝良プロ VS 石井颯太プロ

石井兄弟対決。先日行ったコールドブリーズでは颯太プロに軍配が上がったが、今回は兄の孝良プロが僅差ではあったが、ジャンプ・波乗り共に競り勝ち、決勝へと駒を進めた。

野口颯プロ VS 杉匠真プロ

こちらもコールドブリーズと同じ顔合わせとなった。野口プロが健闘するが、杉プロが高難度の演技をミスなく決め、杉プロが孝良プロの待つ決勝へと進んだ。

3位4位、順位決定戦

石井颯太プロ VS 野口颯プロ

地元御前崎の先輩後輩の対戦。スタート直後、野口プロが高いバックループ。石井プロもバックループで返す。野口プロが明らかに勢いづいている。切れもよく良いセクションでワンハンド等を入れてきた。だが、石井プロのリップから波の内側を抉る様なトップターンは、見る者を唸らせ、見事3位となった。



シングルイリミネーション決勝

石井孝良プロ VS 杉匠真プロ

PWAで活躍する二人の戦いとなった。出だしからギアを上げていく二人。

コンディションは決して良いとは言えない中でも素晴らしい演技を披露してくれる。

何よりも波の上でのバリエーション豊かな演技。「同じ波は二度とこない」と言われる波乗りスポーツの中で、瞬時に演技構成をアジャストさせて魅せる二人には本当に脱帽する。

今回LIVE配信されており、そのアーカイブ動画が残っている。さらに編集された動画も合わせて観て頂きたい。

二人の凄さがより分かると思う。

二人とも素晴らしいのだが、コンテストなので、採点し勝者を決めなければならない。

ジャッジも判定に悩んだと思うが、今回は杉匠真プロがシングルイリミネーションを制した。

筆者の感想として、よりミスの少なかった方が勝者となったのだと思う。

先ずは、杉プロおめでとうございました。



シングルイリミネーションでの表彰：暫定1位 杉 匠真 暫定2位 石井孝良

暫定3位 石井颯太 暫定4位 野口颯

【ウィメンズプロ】

多賀須恵プロ VS 森美奈子プロ

4ラウンド制で先に3勝した方の勝ち（引き分けた場合は5R行う）

多賀須プロは昨年末に肩の手術から復帰したばかり、どこまで調整できたのかが見ものだ。

森プロは御前崎に移住し長年トレーニングを積んできたベテラン。

だが、これは二人だけのガチンコ勝負、そんな前置きは関係ねー！1R 12分間の女の戦いだ！

先に仕掛けたのは多賀須プロ、フォワードループ！そして森プロはより高いフォワードループを繰り出す。

波乗りでは多賀須プロが良いサイズの波を引っ張ってきて、リップめがけてボトムターン！

しかし、攻めすぎたのかトップターンでタイミングが合わず波の裏に抜けてしまう。

波乗りでは安定しポイントを稼いだ森プロが第1ラウンドを制した。

第2ラウンド、多賀須プロが果敢にフォワードループにトライ！

波乗りでもリップを狙い果敢に攻める！しかし、R1での失敗が尾を引いているのか、若干タイミングが遅くなってしまう、波が崩れてからのトップターンになってしまう。

そのまま波乗りの点を伸ばすことができず、第2ラウンドも落としてしまった。

第3ラウンド、ここで森プロが勝てば後が無くなってしまう多賀須プロ。

果敢に攻める多賀須プロなのか、冷静沈着・安定の森プロなのか。

森プロが良いサイズの波を選び、ロングライドを決める。対する多賀須プロは、リップに攻め込むが寄れた波が多くワンターンで終わってしまう。終始攻めた多賀須プロ。

しかし、波選びから常に安定し、より完成度の高い森プロがこのラウンドも制した為、第3ラウンドが最終となり、森プロが優勝と成った。



□Day2 LIVE アーカイブ：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 2 \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024_DAY_2)

□Day2 編集済み動画：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC DAY 2 / wave \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_DAY_2_wave)

□Day2 大会 PHOTO：[Facebook](https://www.facebook.com/)

2024年1月6日 土曜日 大会2日目

メンズプロクラス（ダブルイリミネーション）ルーザーズ ビギナークラス（3ラウンド低得点法）

AMA ウィメンズクラス（トーナメント）が行われた。

風予報は、午前中は10m/s前後、午後は15m/s前後の予報。波は昨日の夕方と比べ落ち着いている物のブレイクはしている。

後半のコンディションを考えると、ビギナークラスには最適なコンディションが整っている。

予定どおり10時からビギナークラスがスタートすることとなった。

【ビギナーメンズ】からスタート。植田選手 VS 竹之下選手

植田選手は地元御前崎の小学校に通う現在小学5年生！今大会最年少参加選手だ。

対する竹之下選手は福岡県からの参加。

植田選手はウインドサーフィン始めてまだ日が浅いが、波のある御前崎の海へ果敢にチャレンジする姿は本当に感動ものだった。

竹之下選手は波の有るコンディションでゲティングアウトから安定した走りをみせ、3ラウンドを制し優勝と成った。ラウンドをこなすごとに両者に上達が見られ、来年のこの大会では更に上達した二人の姿を見ることができると思う。



【ビギナーウィメンズ】 大館選手・山田選手・小野選手・増田選手の4人の戦い

大館選手の父はグランドマスタークラスに出場と、親子で参戦いただいた。

そして、増田選手は高校生、小野選手は中学生、山田選手は小学6年生！

まず御前崎の波のある海の中に出るだけでも凄いことなのだが、更により大きな波を見つけ、波に乗るというのだから驚きである。筆者の私もウインドサーファーで子を持つ身として、娘が荒れた海に入るという事は、嬉しさと共に発狂しそうになるほどの心配が付きまとうに違いない。

さて、筆者の心配はさておき、選手達がさっそうと海に出ていく。

そして驚くべきことに、小学生の山田選手が自分の背よりも大きく見えるような波をキャッチし乗ってくる！そして果敢にターンまでやってのけてしまう姿にMCも思わず歓喜の声と共に涙ぐんでしまう程だった。

ラウンド数をこなすたびに上達の様子が見えるビギナークラス。

最終的に勝ったのは、大館選手だった！安定したセーリングに、しっかりと波をキャッチする技術、確実にターンを重ねるライディングは頭一つ抜けていた様子だった。更に上達した姿を、また全日本選手権で見せてもらいたい。



【アマ・ウィメンズクラス】(トーナメント制)

このクラスは優勝すればプロ資格が授与されるクラスで、中学生も参戦している。

皆が果敢にフォワードループにチャレンジし、勝ち進んでいくとフォワードループをメイクする選手も現れる。

波乗りも上に行く選手はリップを狙い、良いターンを繰り出す。

決勝に進んだのは昨年全日本で優勝した田阪選手 VS 山川選手

田阪選手はフォワードループが上手い。対する山川選手は波乗りに定評がある。

インサイドでは波が割れるが、アウトサイドに行けば行くほどジャンプ台が無くなるコンディション。

インサイドでスピードが出にくいコンディションな事もあり、ジャンプが思うように決まらない田阪選手。

山川選手は確実に波を選び乗る。コンディションに苦しめられた田阪選手。

優勝したのは、確実にポイントを重ねた山川選手となった。



【メンズプロ】ルーザーズヒート

下から勝進んで行き、シングル4位 野口プロに挑戦できる権利を得たのは、板庇プロだった。

板庇プロ VS 野口プロ

高さのある美しいバックループを連発してきた板庇プロに対し、若さと勢いのある野口プロ。

結果は野口プロが勝ち進むこととなった。

今回はジャンプの高さも着水も波乗りも、僅かだが全て野口プロの方が一步リードしていた。

そして、シングル3位 石井颯太プロと再戦することが決まった野口プロ。

野口プロ VS 石井颯太プロ

潮のタイミングなのか波が割れにくい。ジャンプする波が少なく2ジャンプだが、二人とも1本ずつしか纏めきれない。

波乗りは筆者から見ると互角だった。勝ち進んだのは、石井颯太プロだった。

シングル2位 石井孝良プロとの再戦。これに勝った方が杉プロに挑戦できる。

石井颯太プロ VS 石井孝良プロ

出だしからストールを狙った高いフォワードループは孝良プロ。完璧な回転と着水で、先ずはギャラリーを沸かしてきた。波乗りも終始安定し確実にリードを取っていく。颯太プロは精彩を欠いた様子で、ジャンプでも波乗りでも兄：孝良に一步およばなかった。

石井孝良プロ VS 杉匠真プロ

(ダブルイリミネーションは、2位 石井プロが勝った場合グランドファイナルとなり、もう1戦行うが、杉プロが勝った場合は完全優勝となりこのヒートが最終となる)

最初に仕掛けたのは、猛スピードで飛び出したのはダブルフォワードループ！杉プロが高難度のジャンプを決めてきた。

石井プロは高いストール気味のフォワードループ。波に乗れば、杉プロはタカスライドを入れ、石井プロはリップ360を決めて来る。両者が次々と高難度の技を繰り出し、見る者を引き付ける。

「これが PWA ランカーの戦いだ」と言わんばかりに魅せ、演技も見られている事を意識して取り組んでいた。

「二人とも良い試合を見せてくれてありがとう」と、筆者は心から思うのでした。

さて、二人とも良い試合だったのだが、勝者は一人。

優勝は杉匠真プロ！！

そして、JWA OFFICIAL PARTNER 【IMAGICA GROUP】様より特別賞を、試合中にダブルフォワードループを決めた杉匠真プロに贈呈されました。



□Day3 LIVE アーカイブ：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 3 \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024_DAY_3)

□Day3 編集済み動画：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 3 / wave \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024_DAY_3_wave)

□Day3 大会 PHOTO：[Facebook](https://www.facebook.com/)

1月7日 日曜日 大会3日目

グランドマスタークラス オープンクラス スペシャルクラス WAVE クラス 各クラストーナメント制が行われました。

この日のコンディションは、過去の全日本選手権の中でも「一番良い」と言っているほどだ。

波のサイズは胸～頭 面も綺麗だ。朝早い段階ではインサイド付近で風が抜けている。

WAVE クラスまで行うとなると1日が長い。コンテストディレクターと協議し、ウインド力や対応力、そして、夕方まで続く可能性を考え、選手の体力面も考慮してグランドマスターからスタートとした。※後半にかけて休憩が少なくなる為。

【グランドマスター】は50才以上のクラス。選手は全員ウインドサーフィンのベテラン達だ。

選手の半分近くが還暦者である。こんなにカッコよく若々しく元気な60代は世の中探しても早々いないと思う。最年長の大島選手に至っては、選手達の目標だ。自分が同じ年齢に達した時に同じようにできているのかと。大島選手の頑張る姿を見ていると「まだまだ頑張らないと」と思わされるのだ。

さて、試合の方は、1ラウンドが終わり、2ラウンド目にJWA年間ランキングを元にシードされた、森田選手・遠藤選手が待っている。二人は表彰台の常連で、遠藤選手は昨年の優勝者だ。

このラウンドで勝つとセミファイナルだ。先に上がったのは、藤田選手・森田選手。

続いて勝ち上がって来たのは、新美選手・水谷選手だ。昨年優勝の遠藤選手は水谷選手に敗れここで敗退。

皆が皆ベテランだけに、何が起こっても不思議じゃない。

セミファイナルでは、藤田選手 VS 森田選手 新美選手 VS 水谷選手 となった。

波のコンディションが良いため、波を選び、ボトムターンからリップでのアクションで差が付いたように思う。

決勝へ進んだのは、森田選手 VS 新美選手 順位決定戦は藤田選手 VS 水谷選手

3位4位決定戦は、藤田選手がここ一番の素晴らしい波乗りを披露してくれている。しかし、水谷選手のフォワードループが決まり、3位水谷選手、4位藤田選手となった。

優勝争いをする二人は、お互いに良い波に乗り、良い演技を披露する。

波のサイズや形、ロングライドなど少しずつ生まれポイント差になっていく。

しかし、良い波でしっかり乗れば一発逆転もありうる。

筆者の目線では、前半から中盤は森田選手が優勢だったが、後半からラストの波乗りで逆転されたように思う。

グランドマスタークラス優勝は新美選手。

新美選手は御前崎に来るのも全日本選手権に参加するのも初で、初出場で優勝となった。

WAVE 愛好者の中に、大会には参加してないが実力のある方がまだまだ居るのだと思うと、WAVE 委員長の私は嬉しさと共にわくわくした気持ちになってくる。来年の全日本でも新たな実力者が現れるのを期待したい。



【オープンクラス】このクラスは、ビギナーからステップアップしてきた選手から、スペシャルに近い実力をもった選手まで。オープンクラスの選手はジャンプや波乗りなど、良い物を持っている選手も多いが、コンテストとなると、演技を行うエリアと時間が限られ、制限の中でいかに実力を発揮できるかが勝敗に大きく関わってくる。今回は波のサイズも風も十二分にあり、あとは道具と自分をいかにフィットさせるかということ。トーナメントで勝ち進んだ選手は、コンディションの変化に対応しつつ、実力を発揮できていた。今回は波も風も完璧なコンディション。波乗りもジャンプも総合力のある選手が勝ち上がっていた。決勝は中山選手 VS 柳川選手、3位4位決定戦は浦川選手 VS 野口選手となった。オープンクラスも決勝まで勝ち進む選手は、フォワードループは当たり前で飛んでくる。柳川選手に至ってはプッシュループまで飛び出し続けてきた！惜しくも着水で失敗となってしまったが、回転は良かった。どの選手も安定して波に乗っているため、勝敗を分けるのはジャンプの完成度と波乗りの質となる。完成度と質、共に良く、優勝となったのは中山選手だった。途中20 m/sの風が吹き荒れる中、中学生の野口選手が大健闘していた。今回は4位となったが、今後の成長が楽しみな選手だ。



【スペシャルクラス】優勝者にはJWAプロ登録の権利が与えられるクラス。アマチュアクラスの中からプロになれるのはこの全日本選手権のスペシャルクラスだけだ。スペシャルクラスには、過去に優勝したことのある選手がゴロゴロいる。いかにパフォーマンスを発揮できるか。しかも高いレベルが要求されるのだ。勝ち上がってくる選手は、やはり過去に優勝や入賞の経験者ばかり。ジャンプも質の高いフォワードループを繰り出し、波乗りもクリティカルセクションをしっかりと攻めている。セミファイナルに勝ち進んだのは、田阪選手 VS 今井選手・大数加選手 VS 杉選手 入賞常連の田阪選手と今井選手に大数加選手、急成長の杉選手（杉選手は昨年PWAグランカナリーU-15クラスの優勝者で、フリースタイル種目では来年度からプロ活動を開始する予定） 誰が勝ってもおかしくない面子だが、ファイナルに進んだのは、田阪選手・大数加選手だった。

一発高得点の技を決めることも凄いのだが、安定して質の高いパフォーマンスを発揮し続けることの方が、やはり勝ち上がってくる確立が高い。

田阪選手 VS 大数加選手 昨年のスペシャルクラスではセミファイナルで田阪選手が大数加選手を降し優勝、大数加選手が3位だった。

筆者目線では、田阪選手が良いセットを捕まえて来ることと、高いフォワードループが印象的だった。

対して大数加選手は形の良いロングライドできる波を選んでいることが多いように感じ、ジャンプでは飛んで回って飛んで回って、何度もフォワードを連発し続ける。確実に体力は削られているはずだが、あのフォワードの回数はプロ・アマ合わせ、今大会 MVP 間違いない。

そして、スペシャルクラス優勝は、大数加選手となった。



□Day4 LIVE アーカイブ：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 4 \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024_DAY_4)

□Day4 編集済み動画：[ALL JAPAN WAVE CLASSIC 2024 DAY 4 / wave \(youtube.com\)](https://www.youtube.com/watch?v=ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024_DAY_4_wave)

□Day4 大会 PHOTO：[Facebook](https://www.facebook.com/ALL_JAPAN_WAVE_CLASSIC_2024)

1月8日 月曜日（祝） 大会4日目 最終日

WAVE クラス U20 クラスが行われました。

【WAVE クラス】ビギナーを除いたすべてのメインクラスの選手がWエントリーできるクラス。男女も年齢も関係ない、ジャンプ無しの波乗りだけの戦いだ。

そして、定員32名MAXのラダー表、優勝するには一度の負けも許されないシングルイリミネーションのトーナメントだ。

大会3日目に、ラウンド1の途中まで消化し、最終日のこの日は続きからスタートとなった。

最終日は風が落ちていく予報だったが、コンディションが好転し波も最高の状態に整った。

今回、このクラスで非常に興味深く感じたのは、各クラスでの入賞者が順当に勝っているわけではないと言う所だ。

もちろん、入賞者で勝ち進んでいる選手はいるが、そうかと思えば各クラスの1回戦敗退の選手が勝ち上がって来ているケースもあり、非常に面白い展開となっている。

先にも述べたが、全ての試合でいかに実力を発揮できたかが重要となる。決勝に進むには、4回は勝ち続けなければならないのだからだ。

32人の中からセミファイナルに勝ち進んできたのは、安田選手（オープン）服部選手（スペシャル）今井選手（スペシャル）新美選手（グランドマスター）となった。

安田選手と服部選手はメインクラスでは初戦で敗れているが、ここまで勝ち上がって来る過程でメインクラスの入賞者に勝って進んできている。この WAVE クラスの面白いところではないだろうか。

そして決勝では、服部選手 VS 新美選手となった。

両者ともにいい形の波を選んで乗ってくるが、僅かに新美選手の方がターンの深さとリップに近い場所でのトップアクションが秀でていた為、新美選手が優勝となった。



【U-20 クラス】 ビギナーを除いた 20 歳未満の選手達だ (23/4/2 以降の誕生日も U-20)

13 歳から 19 歳とほぼ同世代。

日本における WAVE 競技では 20 代前半から 10 代の選手が世界で活躍しており、このクラスが非常に重要なポジションとなっている。

実際、1 ラウンドからフォワードループが飛び交うほどだ。ウィメンズクラスの若狭選手も果敢にフォワードループを繰り返し、あと少しで完着という所まで来ている。残念ながら敗退となったが、来シーズンが楽しみな一人だ。セミファイナルでは高梨選手 VS 小西選手、堺選手 VS 杉選手の対戦となった。

高梨選手 VS 小西選手の対戦では両者ともに接戦となり、僅差で高梨選手が決勝へと進んだ。

決勝は高梨選手 VS 杉選手となった。

高梨選手はスペシャルクラスで入賞歴のある選手、杉選手は今大会のスペシャルクラス 3 位で、フリースタイルで来年度からプロ登録を行う選手だ。

開始直後、高梨選手がフォワードループを決める。その直後、杉選手が更に高いフォワードループを決め、ポイントを上回ってくる。

波乗りでも、杉選手がよりクリティカルセクションに近い場所でのターンとロングライドできる波を捕まえポイントを重ねて来た結果、優勝は杉選手となった。



最後に、大会開催に向けご尽力いただいた皆様、大会成立に向け奮闘いただいたスタッフの皆様。
ご協賛いただきました各社メーカー・ショップ・個人の皆様。
皆様のご支援ご協力を賜り大会が開催できましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。
誠にありがとうございました。

ご協賛いただきました個人・各社（順不同）

(株)オンズカンパニー様／スターボードジャパン(株)様／(株)マニューバーライン様／Chami 様
／(有)エオ様／TA5 様／BAGUS SURF 様／福野成志様／(株)アトラス様／IMAGICA GROUP 様 (JWA
OFFICIAL PARTNE)



一般社団法人 日本ウインドサーフィン協会 WAVE 委員会 委員長 吉武雅博